昭和34年2月24日　第三種郵便物認可　定価490円
昭和40年5月8日第三種郵便物認可（毎週一回金曜日発行）

1969年5月30日　第179号

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆プロレタリア世界革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！
共産主義者同盟

5月30日
週刊
第179号
編集発行人　佐木木和雄
一部　30円
購読料 20部500円(予共)

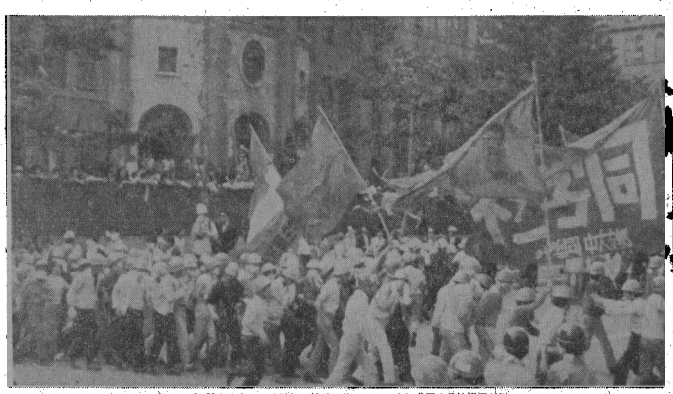
戦旗

戦旗社
東京都千代田区三崎町2-
[illegible]
03(234)2561 振替(東京)3[illegible]
大阪市大阪市[illegible]
本通7-[illegible]
電(06)(458)6857
京都支局京都市左京区下鴨
[illegible]
名古屋支局052 (732) 3553

6月1日/全国一斉入管事務所デモ
(京浜・芝公園23号地、横浜・神奈川山谷公園、神戸・市役所前各午後1時)
6日/ASPAC粉砕全関西労学御堂筋闘争
(午後1時から5時)
7日/ASPAC粉砕総決起集会
(明大駿河台、午後5時)
8日/ASPAC粉砕現地闘争
(伊東市観光会館前、午後一時)
/入管法・外国人学校弾圧粉砕 西日本総決起闘争
(国鉄大村駅・午前十時) なお7日九大記念講堂で午後二時より集会

破防法 大学立法 粉砕の高揚を 愛知訪米阻止 ASPAC粉砕 に牽引せよ

今秋中央権力闘争―佐藤訪米阻止をめざし



5・23大学立法粉砕闘争で神田カルチェ・ラタンを圧する社学同部隊

破防法攻撃が明きらかにした 同盟十年余の闘いの到達点

破防法攻撃を粉砕し、愛知訪米阻止 ASPAC粉砕 入管闘争で国際主義の総進撃を

共産主義者同盟政治局

赤ヘル先鋭化し四千が結集 5・23全国学生総決起中央集会

全関西でも社学同が牽引 大学立法粉砕の学園再占拠へ

愛知訪米阻止 ASPAC粉砕 へ五百の結集でかちとる 5・22労働者政治集会

日帝打倒・安保粉砕＝世界革命戦争への更なる前進を

全国で「大学立法粉砕」の奔流

5・23闘争 全中闘千名結集 ロックアウト下の中大闘争

【中大分局】

学生部占拠 全共闘結成へ 東・日・中に続き、「大学立法」粉砕拠点へ 専大

大学立法粉砕へ進撃 日大闘争一周年に七千結集

全愛知に学園占拠拡大 日共民青の「牙城」を解体

社学同、闘いの先頭へ 中核派の凋落を止揚し封鎖闘争を牽引 群馬大

青学大 大学立法粉砕でバリストに突入

全共闘の創出へ前進 本部占拠（5・13）の限界を克服し 茨大

管理棟＝本部占拠を貫徹 5・8長沼闘争に引き続き 小樽商大

京都府医大の闘いを受け継ぎ府立大も学生部封鎖

北大、本部封鎖を貫徹 社学同、大学立法粉砕へ牽引

安保・沖縄闘争の強化に向けて （下）

愛知訪米阻止—第四回ASPAC川奈会議粉砕

日帝のアジア侵略反革命の現状

侵略反革命を粉砕し革命戦争へ

松島基地撤去に決起 諸党派を領導、6・15第二次闘争へ 仙台

戦後革命敗北の教訓と破防法

世界革命戦争の開始へ、いま破防法うち砕き進もう！

（一）第一次破防法闘争の批判的総括の上に

破防法に対するわが同盟の立場

すでに本紙前号で報じた通り、五月二十日付「サンケイ」朝、夕刊は、わが同盟の「議長の石田昌人(三九)、政治局員の高橋義彦人(三九)ら幹部六人に対して破壊活動防止法四十条三号違反（集団による公務執行妨害の教唆扇動）の疑いで逮捕状をとった」ことを明らかにしている。

これに先立ち、権力は、4・28前夜、わが同盟とともに五派共闘の一翼をになってきた革共同世話人を同容疑で逮捕、さらに、中核「全学連」書記長青木君ほか二名を同容疑で指名手配中である。

かえりみれば、権力は六七年羽田闘争以来「破防法適用」の恫喝をくりかえしてきた。4・28闘争……

……命的昂揚に拝跪し、第一次破防法闘争の再現を追い求め、結局、組合主義の補完物としての左翼組合主義として、反革命の前にプロレタリアートの武装解除を許さざるを得ない欠陥を持っているからだ。われわれの闘いが革命的昂揚から革命的危機の意識的切開へ、世界革命戦争の一環としての中央権力闘争の実現へ、集中されなければならず、まさに、その点で第一次破防法闘争は否定的に総括されなければならないし、この闘いこそが左翼組合主義運動を止揚した、ソビエト運動創出につながるからだ。

ともあれ、われわれの立論の正しさは、現実の中で一つ一つ確証されつつある。

小論は、本紙の諸論文の補足と……

（2・1スト、3・30スト）をはじめ、数え言れない直接介入にあって後退してきた労働戦線は、ようやくこの時に至って、前年結成された労働法規改悪反対闘争委員会（労闘）に結集して三波にわたるストを打ち時に、第二波ストは一〇〇万人規模となった。しかもこの闘いは主として総評によって行なわれ、反共民同のその後の「ニワトリからアヒルへの転換」を準備してゆくことにもなったのである。

だが、あくまでも組合機関に立脚し、ブルジョア権力の攻撃に対しては徹頭徹尾防衛的でしかありえないこの統一ストは、皮肉にもこの反革命の勝利への花道を飾るもの以上ではありえなかった。

ところで、破防法そのものの直接の適用例は、先年の三無事件（右翼）＝有罪を除いては、これまで（釧路、津、京都、岐阜）の四事件）とも制定の年、五二年に集中しており、いずれも三条二項の2号違反（内乱の罪を行わせる目的をもってその実行の正当性または必要性を主張した文書を頒布した）で、日共の下部員、シンパに適用されたもので裁判段階ではいずれも無罪）、今回のように指導部を直接狙う本格的適用は史上初めてなのである。

このことはしかし、次の二点を併せて考えられねばならない。

第一には、破防法制定そのものよりも、それをテコにして推進された階級支配の再編に目を注ぐ必要があること。

第二には、戦後革命の敗北に甘んじてきた当時の指導部は、当然、今日のわれわれのように、「大衆によって武装されてなどいなかったから、破防法の本格的適用をもって正面対決をしなくとも、鎮圧は可能であったこと。

この二点について更に詳しくみてみよう。

まず第一の点に関して、

「破防法の制定によって、……公安警察の担当部課の所掌事務が拡大されたということを指摘する必要があろう。この場合、破防法制定は、『警備情報』（スパイ活動を含む）活動の促進を意味するという点に留意しなければならない」

「他方、『警備実施』活動の面で、特に注目されるのは、それを専らの任務とする機動隊の設置が全国あちこちで始められたことである」（「戦後日本の警察」広中俊雄著）

特に前者については、同年「国鉄の制服を着た警察官が職場にもぐりこんだ」、「岩手の書店では警官が、平和、世界、新世界、ソビエトグラフなどの予約者名を調査していった」などの事例がおこっている。

また、例のポポロ事件でも、本富士署員の東大内スパイ活動がこの年以来続けられてきたことが明らかにされている。これらは、戦後民主主義の最終的定着」がいかなる権力的背景をもって行われていったか、をありありと示すものであろう。

次に第二の点に関して

破防法の直接的対象は、たしか……

……法闘争とは全く異なる闘いが要求されていることがあらためて確認されよう。

この破防法攻撃を世界革命第四の波に対する反革命同盟再編＝なし崩しファシズムの一環として把えるわれわれは、この規定を更に鮮明化してゆくためにも、世界革命第三の波に対する戦後反革命（破防法制定をほぼ完成のメルクマールとするそれ）の性格を解明しておかねばならない。

この時期に至る階級攻防について語る場合、これを次の三つの時代区分を以てするのがほぼ通説になっている。

すなわち、

(一)占領下の民主化の時代

(二)占領政策の転換(四八年半～)

(三)朝鮮戦争～サ条約、安保条約成立（五〇年～五一、二年）

というぐあいに。

これをわれわれが「左翼組合主義……

第一次破防法闘争の歴史的経過

（二）現代帝国主義権力と「戦後革命」の教訓

戦後「民主化」と現代帝国主義

（三）未曽有の昂揚・それへの拝跪・破防法へ

「戦後革命」の昇揚に拝跪した左派

反革命のなし崩し的進行と破防法

（4面へつづく）

階級的労働運動の建設のために（上）

武装労働者の担う中央権力闘争
計画的ソビエト運動の最大の発展

共産主義者同盟中央労働者組織委員会

4・28闘争の止揚　秋期安保決戦へ

中央権力闘争と計画的ソビエト運動

中央権力闘争の展望

国鉄吹操闘争に250が決起

大阪北摂の各地区反戦

江東反戦再建さる！

江東区に無数のプチロフ工場を

台東都電撤去粉砕デモ

山谷の戦闘部隊とともに

横浜反戦集会に百十名

中共九全大会路線批判（上）

現代過渡期社会と中国国民経済形成過程

渡辺数馬

革マル主義の破産と我々の闘い

革マル派の更なる解体と早大闘争の前進のために

社会主義学生同盟早大支部

文英堂闘争、実力闘争へ突入

解雇には資本解体で対決

4・28治安弾圧に抗し救援活動のより強化を

［共産主義者同盟・救対部］

4・28安保沖縄闘争

世界革命戦争―中央権力闘争の実践的開始に総力を挙げる……

発売中　価一五〇円（〒一五〇円）　A5版・七二頁

「日共批判」「羽田闘争」「労働運動の現段階とわれわれの任務」に続く共産同パンフ第4弾！

共産主義者同盟

キム　創刊号　発売中!!

共産主義者同盟労対部パンフレット

反帝統一戦線と階級的労働運動

第一章　労働運動の転換とは何か
第二章　70年代安保闘争における組織された暴力の位置
第三章　反レ・バ闘争の階級的意義について
第四章　右派労働運動の性格と動向

発売中　一五〇円（〒一五〇円）

内容
共産主義青年同盟に結集せよ　中央常任委員会の提案
主張／69年階級闘争の性格
闘争報告1　塩水港
闘争報告2　国鉄
農本ファシズムの一考察　石川朗
資料1　国際階級闘争
資料2　日帝の沖縄政策
資料3　朝鮮

共産主義青年同盟結成大会報告　A5版（八六頁）　二〇〇円（〒三〇円）
共産主義青年同盟　中央常任委員会発行